

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503759), 法人名 (有限会社 時館), 事業所名 (グループホームあいあるみすまい), 所在地 (札幌市南区簾舞3条5丁目8-33), 自己評価作成日 (令和4年12月20日), 評価結果市町村受理日 (令和5年4月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して暮らす事が出来る様に個人に合わせた生活リズムに柔軟に対応する事が出来るように心掛けています(食事の時間や場所等)。外部との関りやイベントは積極的に実施出来ない状況である為、日常の中で如何に残存機能を低下させない支援を自然に行う事が出来るかを検討し実践するようしています。家族との面会の時間も大切な時間であるために感染状況に応じて、面会の規制を随時規制と緩和を見直し少しでも一緒に時間を過ごして頂けるよう配慮しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503759-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年1月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内簾舞地区の石山通り沿いに位置し、近隣には公園、小学校、コンビニ等がある交通、生活に至便な住宅街に立地している。職員は、利用者が個々のリズムに合わせ、安心して暮らす事が出来るよう、法人理念を念頭に日々支援している。また、コロナ禍で外出行事が難しい中、ホーム行事や筋力低下防止の運動等を企画し、利用者にとって楽しみある生活となるよう努めている。外出についても外気浴等、出来る事から少しずつ取り組み、コロナを理由に閉じこもる事のないよう、職員間で検討を重ねている。現在、相互に自衛傾向であるが、通例では地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域とのつながりを重視し、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で連携を深めている。今後も更なる活躍が望まれる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service achievements and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示されている。職員は利用者との信頼関係が築けるよう、理念の実現に向かって取り組んでいる。	法人理念を事業所の目に付く場に掲示することで、日常的に振り返り、理念が実践出来るよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、馴染みのパレスタジオからの提案で子供達による踊りの披露や小学生との交流を行っていた。現在はコロナ禍の為交流はできなくなっている。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、回覧板での事業所の近況の周知等、関係維持の方法について職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回実施されている運営推進会議で施設の取り組みなどを書面にてお伝えし、理解を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活状況や行事、事故報告、サービス改善についての報告を現在は、書面会議としている。	現在は書面開催となっているが、通例では管理者を中心に家族、地域代表、包括で構成され、定例で開催している。運営状況や現状の問題点を挙げ、参会者から意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の割合が多く、緊急時の相談など行政の担当者とは密に連携が図れている。運営上の案件や報告書類等に関しては、電話やメール、FAXを活用して行政と情報を共有している。	市、地域包括支援センターから情報提供や指導・アドバイスを受けている。定例の運営状況報告の他、地域高齢者や事業所の状況について、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を常設し、現状のケアについて再確認し、言葉遣いや対応がスピーチロックになっていないかなど、振り返る機会に取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。虐待を含めた全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を職員間で協議し、繰り返す事のないよう周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修において権利擁護や成年後見制度について情報提供も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には十分な説明を行い、質問等があればその場で解決するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍にて面会も制限があり、ゆっくりと家族から意見を聴く事は難しいが電話やメールにて連絡を取っており、ご意見や提案を頂き、職員間で共有し反映させている。	写真を添えたお便りや電話で、利用者の日常の様子を伝えている。事業所のサービスや職員の介護姿勢等について定期的にアンケートを実施しており、意見・要望は運営推進会議の場で公表しながら、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い、事業所や会社に対しての要望等がある際には職員意見箱もあり運営に反映させている。	申し送りや月例の会議の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、本社に直接に意見を述べる事の出来る意見箱の設置や、相談には管理者が随時対応する等、働きやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個別面談で職員の悩みや希望等を把握し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	性別・年齢・学歴に関係なく、やる気を重視して採用を行っている。認知症研修など行い学ぶ機会を設け、家庭の事情等で時間の制限がある職員に関してもできるだけ配慮し、働きやすい職場づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、研修(リモート)に積極的に参加し同業者との情報交換を行い日常のケアに反映できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、傾聴し、施設での暮らしの情報を取り入れ、職員間で共有し、安心感を持って生活していただけるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安等が軽減されるまで話を伺い、ご家族の都合に合わせて話し合う場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の要望等を聞き取り様々な職種の職員と課題分析を行い、ニーズを見極め、安心して生活していただけるように適切な対応が行える様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は行って頂き、出来ない所は出来る範囲で職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に月に一度、本人の写真付きのお手紙で様子を伝えている。コロナでご家族の面会は減っているが、電話やメール等で報告、相談し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにて面会時間に制限もあるが、面会に来られない方は、電話連絡等で関係継続できるよう努めている。	通例では、馴染み、希望する場所への訪問は、職員同行や家族の協力を得て、想いに添える様、支援している。コロナ禍において、現在は電話連絡の頻度を上げることで関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや施設行事等に参加していただき、利用者同士の関係を観察し、必要時に職員が入りながらコミュニケーションを図る事が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できるよう努めている。相談に対して活用できる必要な提案、情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の意向を把握し、職員で話し合い、その人らしい生活が出来る様に努めている。	本人からどのように過ごしたいのか、具体的な希望・意向を聞き取る等、家族にも協力を得ながら、情報収集に努め、日々のケア、介護計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のケアマネや施設職員関係者、本人・ご家族に情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントやモニタリングを行い、その時々々の状況を観察しながら支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の意見、ご本人やご家族の要望などをお聞きし、ケアマネージャー、職員とでモニタリングを行いケアプランの作成に反映させている。	職員相互でモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や主治医からの意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の生活状況を介護記録に残し、評価やモニタリング時に柔軟に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、支援やサービス内容を考え直し、出来る限り本人やご家族のニーズ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域の方やボランティアの受け入れは中止していた。施設敷地内にて庭の畑の収穫等行っていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続できるよう入居時に希望を聞いている。また受診や往診の際には職員が立ち合い、主治医への状態報告や指示受けを行い、医療関係との関係づくりに努めている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援している。訪問診療による受診や、訪問看護による健康チェックがあり、個人記録を作成し、家族、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について医療連携で訪問看護、往診医に情報提供、相談し、必要時には受診するなど連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関への入院時、基本情報・病歴・薬情を伝えている。コロナ禍にて入院中は電話にて状況の確認を行い、退院時の流れもスムーズに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明は行っており、ご家族から利用者が重度化や終末期になった際の意向について話し合い書面に残している。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティングなどで実践力を身に付けるよう務める。また、急変時の連絡・対応マニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施、コロナ禍で地域と協力しての訓練は行えてないが、町内会長さんに何かあった時にはご協力をお願いしている。	年2回の火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域町内会役員には避難後の見守り等、役割もお願いしている。	自然災害に関する避難訓練内容のさらなる充実と家族、関係者への避難場所の周知が検討されている。計画の進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に介護理念を意識し、言葉遣いや態度などには職員ひとりひとりが注意をしている。	職員は接遇や言葉使い、望ましいケアについて定期的に検討している。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望が引き出せるような環境作りは出来ている。認知症により意思表示が出来ない方には声掛けを多くしコミュニケーションを取り、言動や行動から感じ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはほぼ決まっているが、体操やレクリエーションへの参加は強制はせず、本人のペースで生活していただけるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服を選んでもらったり、こだわりのものを身に着けられるように支援している。また衣類の乱れがあれば声掛けしたり、一部介助をしたりして身だしなみに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者に委託している為、盛り付け・片付け・食器拭きのお手伝いを積極的にして頂いている。またレクリエーションとして、手作りおやつなどを作っている。	献立は、季節感を大切にしたい利用者の希望を取り入れたものとなっている。下準備から片付けまで、好きなお手伝いをお願いし、食事を楽しみある時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理にて食事提供を行っている。食事量や水分量は記録に残しており、必要な栄養・水分の確保が出来る様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い促している。自力でできない方には、一部介助や全介助を行っている。一週間に一度歯科往診にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在の能力を維持できるように、できる限りトイレ誘導シット上での介助にならないように努めている。排泄チェック表を確認し声掛けを行っている。	チェック表を用い、個々のタイミングを時間で把握し、トイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便間隔があく場合には往診先の医師に相談し排便コントロールしており、水分摂取や適度の運動にも取り組んでいただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、本人の体調や希望により、曜日や時間をずらすなど柔軟に対応し職員と1対1で利用者のペースに合わせてゆったりと楽しめるよう努めている。	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。毎日お湯はりしており、事業所都合ではなく、同性介助等、利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の疲れ具合に合わせて、個別の休息(昼寝など)を取り入れている。入眠時も希望の時間で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬されている処方内容を職員全員が閲覧できるような管理を行っている。体調変化が見られた時には直ぐに24時間対応の往診先の医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割であったり出来ることを継続して行う事が出来る様に、意図的に働きかけ役割を持って生活できるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実施の数は多くないが、ご家族とともに外出する事は実施している。遠方への外出は実施できていないがニーズがあれば実施に向けた検討を行う用意をしている。	全員での外出行事は中止しているが、個別に声掛けし、外気浴や周辺の散策をしている。室内でのレクに運動を取り入れ、気分転換や心身の機能維持に努めており、コロナ禍での制限が最小限となるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を使用出来る事の大切さは理解しているが現状実施はしていない。しかしながら、希望があればいつでも家族との相談のうえで実施に向けた用意をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される場合には電話を使用して頂く事は可能だが現状利用される方はいない状態であるが、手紙等が届いた際には本人へ渡し家族との繋がりが途絶えないように心掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはカーテンやエアコン、暖房などを適切に使用し換気も含めて環境を調節している。壁面には季節の飾りつけを行い季節感を感じる事が出来る様にしている。	リビングでは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気に配慮している。利用者と共に作成した季節を感じる作品を飾り付けする等、温かみある雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースは広くなく一人に慣れる場所は用意できないが、利用者同士の関係等を考慮した食席やスタッフが配慮する事で安心して暮らして頂けるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みのものを室内に持ち込んで飾って頂けることを説明し安心した環境を作ることを心掛けている。	安心して自宅さながらの生活が続けられるよう、居室には家族の協力を得て、昔馴染みの家具や思い出ある物が持ち込まれおり、落ち着いた雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や文字を使用する事によって施設内を自分の意志で移動できる事が可能になるように目指している。		